

荒川流域一斉水質調査マップ2019

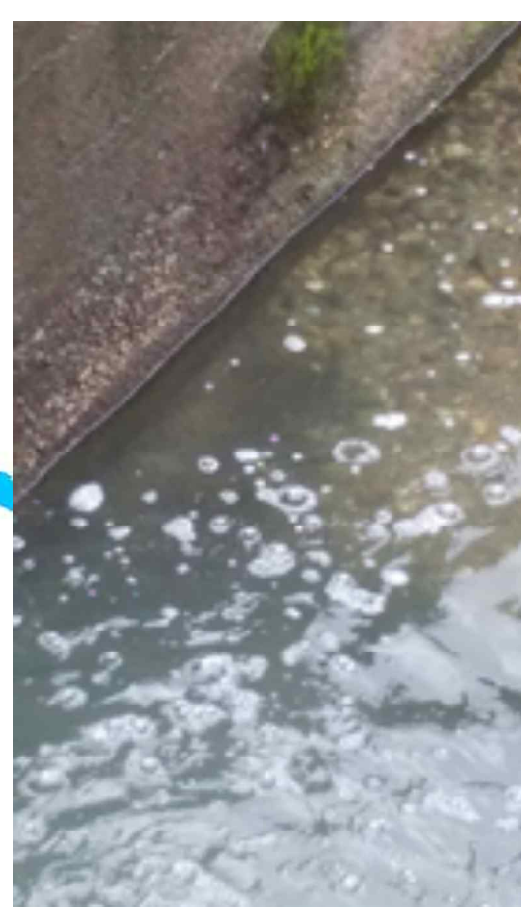
調査日2019年6月2日(日)

主催 特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク

参加団体 27団体、3大学、1個人



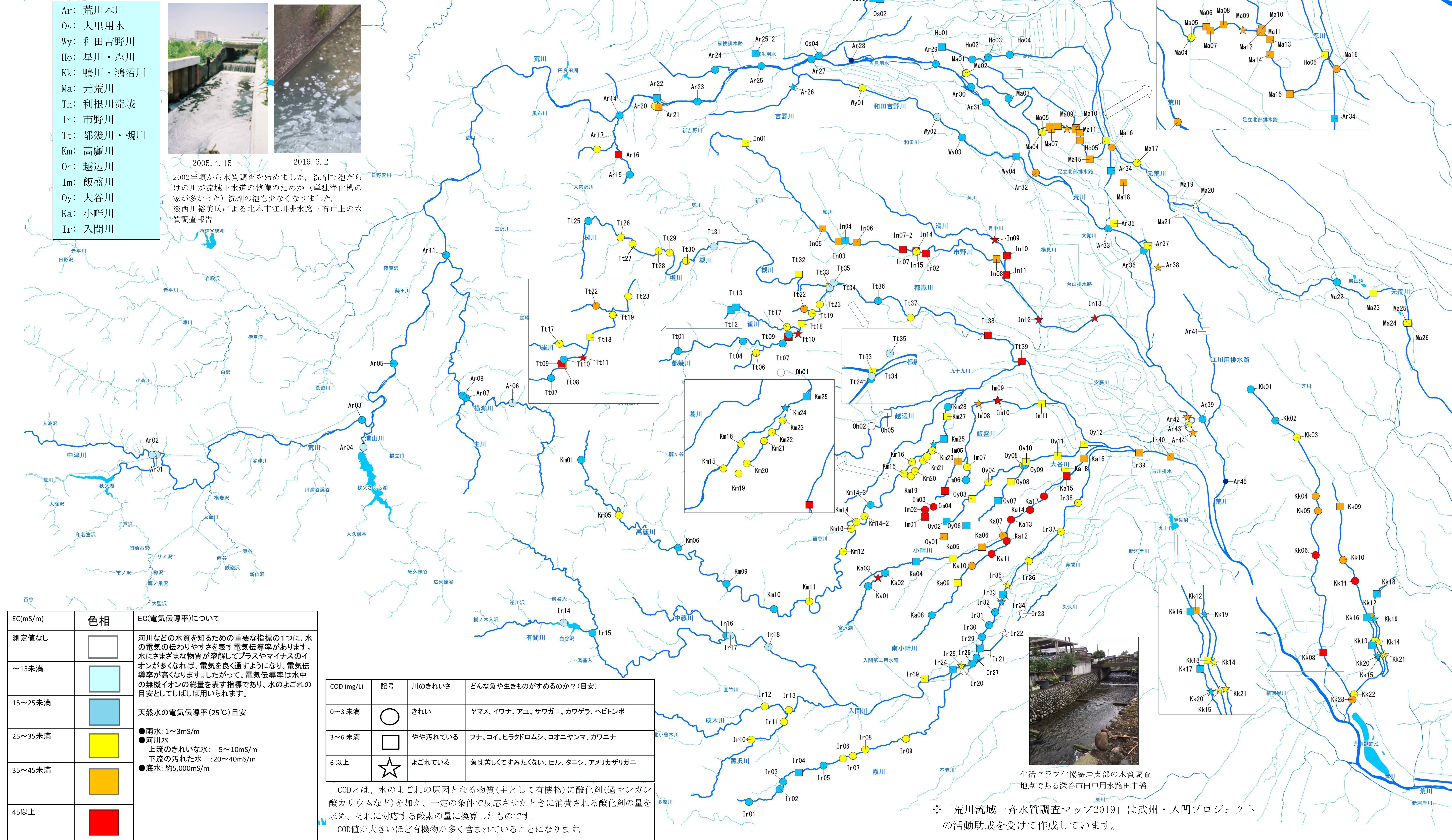
Ar: 荒川本川
Os: 大里用水
Wy: 和田吉野川
Ho: 星川・忍川
Kk: 鴨川・鴻沼川
Ma: 元荒川
Tn: 利根川流域
In: 市野川
Tt: 都幾川・槻川
Km: 高麗川
Oh: 越辺川
Im: 飯盛川
Oy: 大谷川
Ka: 小畔川
Ir: 入間川



2005. 4. 15

2019. 6. 2

2002年頃から水質調査を始めました。洗剤で泡だらけの川が流域下水道の整備のためか(単独浄化槽の家が多かった)洗剤の泡も少なくなりました。
※西川裕美氏による北本市江川排水路下石戸上の水質調査報告



EC(mS/m)	色相	EC(電気伝導率)について
測定値なし		河川などの水質を知るための重要な指標の1つに、水の電気の伝わりやすさを表す電気伝導率があります。水にさまざまな物質が溶解してプラスやマイナスのイオンが多くなれば、電気を良く通すようになり、電気伝導率が高くなります。したがって、電気伝導率は水中の無機イオンの総量を表す指標であり、水のよごれの目安としてしばしば用いられます。
～15未満		
15～25未満		天然水の電気伝導率(25℃)目安
25～35未満		●雨水: 1～3mS/m ●河川水 上流のきれいな水: 5～10mS/m 下流の汚れた水: 20～40mS/m ●海水: 約5,000mS/m
35～45未満		
45以上		

COD (mg/L)	記号	川のきれいさ	どんな魚や生きものがすめるのか? (目安)
0～3未満		きれい	ヤマメ、イワナ、アユ、サワガニ、カワゲラ、ヘビトンボ
3～6未満		やや汚れている	フナ、コイ、ヒラタドロシ、コオニヤンマ、カワニナ
6以上		よごれている	魚は苦しくすみたくない、ヒル、タニシ、アメリカザリガニ

CODとは、水のよごれの原因となる物質(主として有機物)に酸化剤(過マンガン酸カリウムなど)を加え、一定の条件で反応させたときに消費される酸化剤の量を求め、それに対応する酸素の量に換算したものです。
COD値が大きいほど有機物が多く含まれていることになります。



生活クラブ生協寄居支部の水質調査
地点である深谷市中用水路田中橋

※「荒川流域一斉水質調査マップ2019」は武州・入間プロジェクトの活動助成を受けて作成しています。